

事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 文化財保護審議会運営事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 7 施策7 歴史・文化遺産の保存と活用
予算科目: 1 0 0 6 0 2 0 1 5 5 4 0 0
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
文化財保護法の規定による指定を受けた文化財以外の文化財、及び東京都文化財保護条例の規定による指定を受けた文化財以外の文化財で、国立市の区域内に存在する文化財の保存・活用のために必要な措置を講ずるため、地方自治法及び、文化財保護法の規定に基づき、教育委員会に文化財保護審議会(委員の定数10人以内・現有7人)を設置し、教育委員会からの諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項を調査審議し、これらを教育委員会に建議する。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
文化財保護審議会を4回開催、「市内文化財の指定・登録」について審議したほか、旧国立駅舎や文化財行政全般について報告を行い、意見を頂戴した。平成27年度は、指定文化財の追加指定及び名称変更1件(緑川東遺跡出土石棒4点(附)深鉢形土器残欠3点)、登録1件(青柳地蔵堂内地蔵菩薩・六地藏 7躯)。

平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
文化財保護審議会を4回開催し、「市内文化財の指定・登録」等について審議予定。

対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
市内文化財全般、市民
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
文化財を保護し後世に残す。

結果(どんな結果に結び付けるのか)
市内の歴史・文化遺産が大切に守られ、活用されています

(2)各指標等の推移
項目: 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)
名称: 文化財保護審議会開催回数
単位: ア 回
平成24年度(決算) 4, 平成25年度(決算) 4, 平成26年度(決算)(A) 4, 平成27年度(決算見込み)(B) 4, 平成28年度(当初予算) 4, 目標年度(目標値) 4, 差額(B)-(A) 0

(3)事務事業コストの推移
項目: 正規職員従事人数
単位: 人
平成24年度(決算) 1, 平成25年度(決算) 1, 平成26年度(決算)(A) 1, 平成27年度(決算見込み)(B) 1, 平成28年度(当初予算) 1, 目標年度(目標値) 1, 差額(B)-(A) 0

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
有効性評価
成果の向上余地
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
廃止・休止の成果への影響
影響無 [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
類似事業との統廃合・連携の可能性
他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 3 改革・改善方向の部に反映

活動指標・対象指標・成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
文化財に対して、十分な調査や保護を行い、成果を向上させていくことが課題である。

効率性評価
事業費の削減余地・歳入の確保
事業費削減(歳入確保)余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
削減余地がない [以下に理由を記入]

公平性評価
受益機会・費用負担の適正化
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
公平・公正である [以下に理由を記入]

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
より多分野の文化財に対しての対応していくためにも、体制・予算等での充実が求められる。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
公共関与と妥当性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
有効性 [] 適切 [x] 見直し余地あり
効率性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
公平性 [x] 適切 [] 見直し余地あり

(2) 全体総括(振り返り、反省点)
文化財保護審議会運営をより充実させるためには、今以上の調査、準備が必要となり、コストが増大する。

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
[] 廃止 [] 休止 [] 事業統廃合・連携 [x] 事業のやり方改善(有効性改善)
[] 事業のやり方改善(効率性改善) [] 事業のやり方改善(公平性改善)
文化財としての対象や範囲は年々拡大されてきている。近年特に自然分野(地質や環境など)についても文化財としてとらえられているため、国立市においてもこれまで手をつけていない分野についても保護することが求められている。また、年々消滅の一途を辿る文化財も依然として存在しており、一刻も早い、各分野の調査が必要である。

(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
コスト
削減 維持 増加
向上 [] [] []
維持 [] [] []
低下 [x] [] [x]

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
悉皆調査等、調査を充実させるには多大なコストが生じる。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか、また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート(兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 文化財調査事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 施策7 歴史・文化遺産の保存と活用
予算科目: 一般 1 0 0 6 0 2 0 1 5 5 0 0
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
市内に所在する各種文化財の調査を実施。主に、1.埋蔵文化財調査、2.本田家所蔵資料調査、3.文化財の新規指定・登録に伴う調査。

1 現状把握の部(PLAN)(DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)

平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
1.埋蔵文化財調査: 埋蔵文化財包蔵地の照会、開発等に伴う緊急発掘調査及び、27年度に行われた緊急調査45件の整理調査。

Table with 10 columns: 項目, 名称, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 活動指標(新たに調査した文化財件数), 対象指標(市内所在の文化財件数), 成果指標(新たに調査した文化財件数), 上位成果指標(過去1年間で市内の歴史・文化遺産を訪れたことがある市民の割合)

事務事業コストの推移
Table with 10 columns: 項目, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 正規職員従事人数, 正規職員人件費計(C), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 物件費, 維持補修費, 移転支的コスト, 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I)

2 評価の部(CHECK)*原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

成果の向上余地
成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?
廃止・休止の成果への影響
事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は?そもそも、この事業は、施策の目的や公益の増進に役立っているか?

類似事業との統廃合・連携の可能性
目的を達成するには、この事務事業以外他に方法は?類似事業との統廃合ができるか?類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか?

活動指標、対象指標、成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
試掘・立会の結果、本調査となった場合、調査費が事業者負担となるため、事業者の理解を得られないことがある。

事業費の削減余地・歳入の確保
事業費削減(歳入確保)余地がある【以下に理由を記入】
3 改革・改善方向の部に反映

人件費(延べ業務時間)の削減
削減余地がある【以下に理由を記入】
削減余地がない【以下に理由を記入】

受益機会・費用負担の適正化
見直し余地がある【以下に理由を記入】
公平・公正である【以下に理由を記入】

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
調査を丁寧に実施すると、事業費、人件費が大幅に増えることとなる。

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
公共関与と妥当性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
有効性 [] 適切 [x] 見直し余地あり
効率性 [x] 適切 [] 見直し余地あり
公平性 [x] 適切 [] 見直し余地あり

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
削減 維持 増加
向上 維持 低下

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
専門的な知識を要する分野であるため、職員体制が変わった際にも対応できるようにする必要がある。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたこととなりますか、また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 文化財保護・活用事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 施策7 歴史・文化遺産の保存と活用
予算科目: 一般 1 0 0 6 0 2 0 1 5 5 0 0
事業期間: 単年度のみ

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
1.文化財指定は、昭和43年4月に施行された国立市文化財保護条例に基づき開始。文化財登録は、平成10年4月に改正された市文化財保護条例に基づき開始。
2.平成10年度より、東京都教育庁主導で開始。国立市としても、同年度より参加。
3.東京都社会教育課長会の発案により、昭和63年度から開始。

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
1.指定・登録文化財: (1)新規指定・登録、指定文化財(追加指定及び名称変更)1件、登録文化財1件(2)市指定文化財4点の保護助成 (3)都指定文化財に向けた調整 2.文化財ウィーク: 公開事業: 国重要文化財2点他、本田家住宅公開及び、講演会と見学会を実施。 3.郷土誌フェア: 平成28年1月23日・24日の2日間、立川市女性センターアームにて実施。 4.その他: 下谷保一墳樹木剪定、自然と文化の散策路案内看板移設等

対象(誰、何を対象にしているのか)*人/や自然資源等
ア)市内所在のすべての文化財
イ)市民及び近隣住民
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
文化財保護をし、後世に伝える適切な処置を講じると同時に、活用し、広く多くの人に地域の文化財を周知し、保護・活用する意識を醸成する。

Table with 10 columns: 項目, 名称, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 活動指標(事務事業の活動量を表す指標), 対象指標(対象の大きさを表す指標), 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標), 上位成果指標(結果の達成度を表す指標)

事務事業コストの推移
Table with 10 columns: 項目, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 正規職員従事人数, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 嘱託職員従事人数, 物件費, 維持補修費, 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I)

2 評価の部 (CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性: 見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
有効性評価: 影響無 [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
類似事業との統廃合・連携の可能性: 他に手段がある (具体的な手段、事務事業) 3 改革・改善方向の部に反映

活動指標、対象指標、成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
文化財の保護・活用の重要性を普及させるためには、より多くの普及・公開事業の実施が必要である。文化財にあまり興味のない市民の方に興味を持ってもらう取組みが必要と考えられる。

効率性評価: 事業費削減(歳入確保)余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
公平性評価: 見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
公共関与と妥当性: [x]適切 []見直し余地あり
有効性: []適切 [x]見直し余地あり
効率性: [x]適切 []見直し余地あり
公平性: [x]適切 []見直し余地あり

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
Table with 3 columns: 削減, 維持, 増加
Rows: 向上, 維持, 低下

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
新たな取組みが必要となるため、コストが発生する可能性がある。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたことになりませんか。また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)

Header information table including project name (郷土文化館・古民家管理運営事業), policy name (1ひとを育てる、守る), strategy name (施策7 歴史・文化遺産の保存と活用), and budget items.

事務事業の概要 (事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述) この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
(事業の内容)郷土文化館及び古民家の通常開館時の窓口業務や、貸館時の来客対応、建物の維持管理は指定管理者による事業となるが、それ以外の施設の工事や修繕、備品整備、機器賃借等を本事業内で行う。

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
特定指定管理者との年度協定締結 特殊建築物等定期調査 用地借上事務 図書館システム保守・機器賃借等事務

平成28年度の事業計画(平成28年度に計画している主な活動)
特定指定管理者との年度協定締結 特殊建築物等定期調査 用地借上事務 図書館システム保守・機器賃借等事務 運営備品購入
対象(誰、何を対象にしているのか)*人や自然資源等
郷土文化館および古民家施設
意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)
郷土文化館および古民家を適正に管理し安全・快適に利用できるようにする

Table with 10 columns: Item, Name, Unit, Heisei 24, Heisei 25, Heisei 26, Heisei 27, Heisei 28, Target, Difference. Rows include facility usage, area, population, and cost metrics.

Table with 10 columns: Item, Unit, Heisei 24, Heisei 25, Heisei 26, Heisei 27, Heisei 28, Target, Difference. Rows include personnel costs, material costs, and income/expenditure.

2 評価の部 (CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
なぜこの事業を行政が行わなければならないのか?税金を使う必要があるか、民間や受益者ができる事業か?かつ、行政が行うとした場合、国・都が行う事業か、それとも市が行う事業か?

成果の向上余地
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
向上余地がない [以下に理由を記入]
成果を向上させる余地はあるか?成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか?何が原因で成果向上が期待できないのか?

廃止・休止の成果への影響
影響無 [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
影響有 [その内容]
郷土文化館は、地域の歴史や文化財を調査・収集・保管・教育普及すると同時に、市民活動の中心拠点として位置付けられていることから、本事務事業を廃止・休止した場合、地域の歴史や文化財の保護や市民の文化活動を著しく低下させることになる。

活動指標、対象指標、成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
平成6年の開館より20年が経過し、来館者数は横ばい傾向にある。魅力的な企画展や講座、講演会などを積極的に打ち出す必要がある。

事業費の削減余地・歳入の確保
事業費削減(歳入確保)余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
事業費削減(歳入確保)余地がない [以下に理由を記入]
竣工から20年が過ぎ、施設及び設備の経年劣化が著しいことから、維持管理費は増加傾向にある。

人件費(延べ業務時間)の削減
削減余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
削減余地がない [以下に理由を記入]
現状、最低限の業務時間と云えるので、これ以上の削減は難しい。

受益機会・費用負担の適正化
見直し余地がある [以下に理由を記入] 3 改革・改善方向の部に反映
公平・公正である [以下に理由を記入]
指定管理者は選定委員会を通じて選択されている。また、だれもが利用でき、利用料は条例で定めているので、公平・公正である。

事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?
維持管理費の増大は今後の課題である。

Table with 2 columns: Evaluation Item, Result. Rows include public participation, effectiveness, efficiency, and fairness.

(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)
削減 維持 増加
向上 維持 増加
成果 低下

(5) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
常設展示室の改修にはコストが生じるものと考えられる。
(6) <目標達成基準、見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたことになりませんか。また、見直し・廃止となりますか?

事務事業マネジメントシート (兼 事務事業コスト計算書)

事務事業名: 郷土文化館歴史文化遺産保存活用事業
政策名: 1ひとを育てる、守る
施策名: 施策7 歴史・文化遺産の保存と活用
予算科目: 一般 1 0 0 6 0 5 0 1 5 6 2 0 0

事務事業の概要(事業の具体的な手順、詳細、期間限定複数年度事業は全体像を記述)
この事業を開始した経緯(いつ、どのような経緯で開始したか)
郷土文化館は、昭和51年2月25日に社会教育委員の会より教育委員会へ答申された「国立市における社会教育施設のあるべき姿との配置及び施行の優先順位についての答申」を受け、平成6年11月に開館。古民家も市指定有形文化財・建造物に指定された文化財で、郷土資料として伝承事業等を体験できる施設として、平成3年に開館。

1 現状把握の部 (PLAN) (DO)
(1) 事務事業の目的と指標
手段(主な活動)
平成27年度の実績(平成27年度に行った主な活動)
資料収集、資料調査、資料保存
(1)自主企画展5件(写真展「学舎のまち」にたち 谷保村のころ、企画展「彫刻家今城忠三」、ミニ企画展「戦後70年 くにたちと戦争」、企画展「村の明治医新 谷保の村医者本田家の軌跡」、企画展「むかしの(ら)し展」)
(2)講演会・体験講座、古民家事業、民具案内、その他体験教室。

Table with 10 columns: 項目, 名称, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 活動指標(事業数), 対象指標(施設面積, 人口), 成果指標(事業数, 来場者数), 上位成果指標(割合)

事務事業コストの推移
Table with 10 columns: 項目, 単位, 平成24年度(決算), 平成25年度(決算), 平成26年度(決算)(A), 平成27年度(決算見込み)(B), 平成28年度(当初予算), 目標年度(目標値), 差額(B)-(A)
Rows include: 正規職員従事人数, 正規職員人件費計(C), 再任用職員従事人数, 再任用職員人件費計(D), 嘱託職員従事人数, 嘱託職員人件費計(E), 人に係るコスト計(F), 物件費, 維持補修費, 物に係るコスト計(G), 扶助費, 補助費等, 繰入金, 移転支的コスト計(H), 支出計(I)=(F)+(G)+(H), 収入計(J), 収支差額(K)=(J)-(I), 一般財源投入割合

2 評価の部 (CHECK) *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価
公共関与の妥当性
成果の向上余地
廃止・休止の成果への影響
類似事業との統廃合・連携の可能性
活動指標、対象指標、成果指標の推移、公共関与性評価、有効性評価から見たこの事務事業の課題は?
事務事業コスト、効率性評価、公平性評価から見たこの事務事業の課題は?

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(ACTION)
(1) 担当課評価者としての評価結果
(2) 全体総括(振り返り、反省点)
(3) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可
(4) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要)

(5) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策
(6) <目標達成基準, 見直し・廃止基準>この事業はどのような状態となれば目標が達成されたことになりませんか。また、見直し・廃止となりますか?